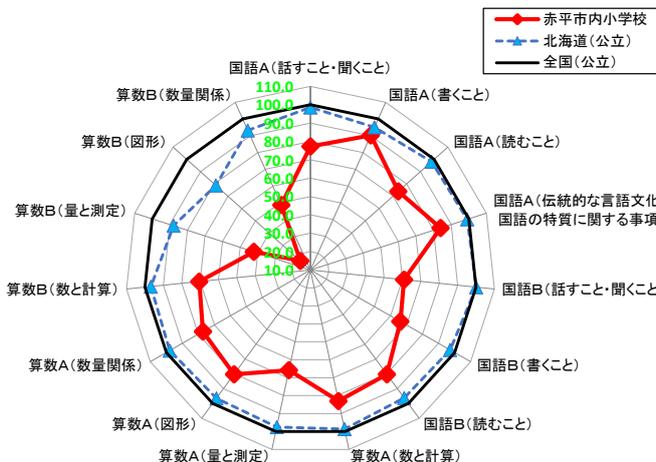


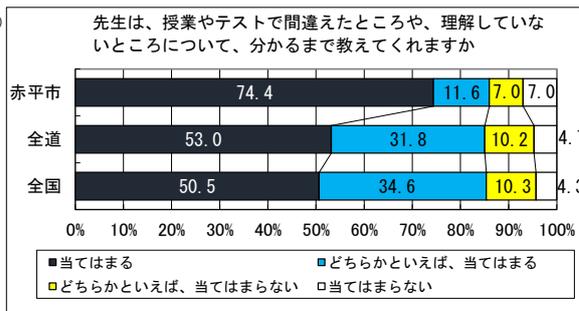
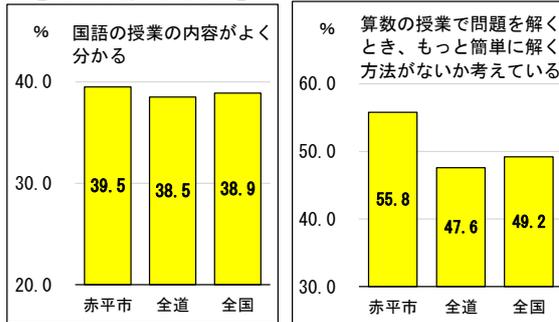
# ■赤平市内小学校の状況及び学力向上策(学校数:3校、児童数:43人)

## 【教科全体の状況】

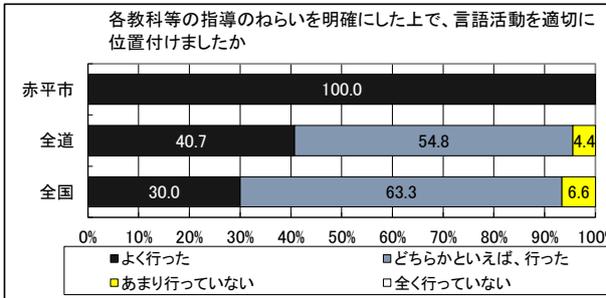
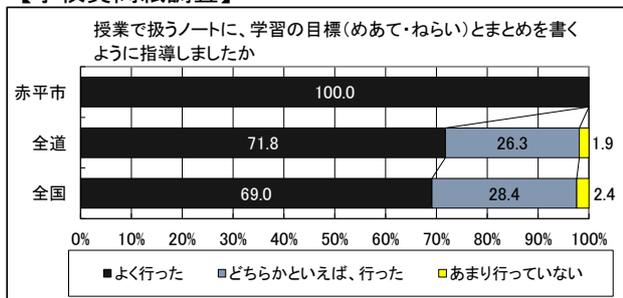
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの  
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



## 【児童質問紙調査】



## 【学校質問紙調査】



## 【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国語Aでは、「書くこと」で全国に最も近くなっている。</li> <li>○ 算数Aでは、「数と計算」で全国に最も近くなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業で扱うノートに、学習の目標(めあて・ねらい)を書くように指導したり、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えたりした結果、国語の授業の内容がよく分かる児童が増え、国語Aの「書くこと」で全国に最も近くなったと考えられる。</li> </ul>
児童質問紙	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくださいませんか」と回答した児童の割合が、全国及び全道を上回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けるとともに、児童の思考を促す指導を工夫した結果、算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える児童が増え、算数Bの「図形」で全国に最も近くなったと考えられる。</li> </ul>
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ すべての学校が、「授業で扱うノートに、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書くように指導した」と回答している。</li> <li>○ すべての学校が、「各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けた」と回答している。</li> </ul>	

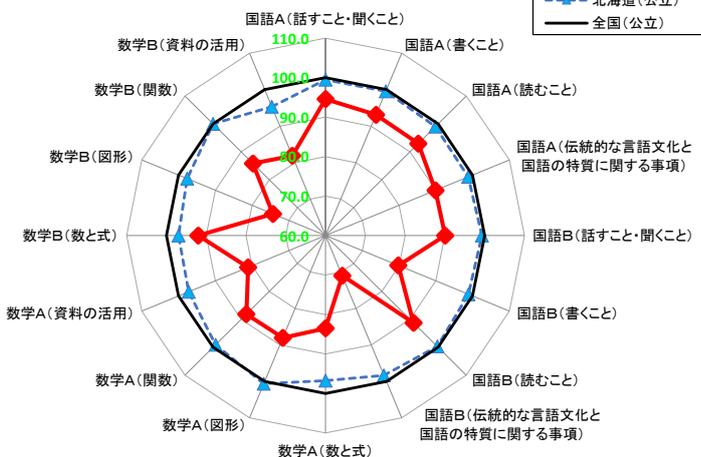
## 【赤平市の学力向上策】

- ◎ 全国学力・学習状況調査結果等を踏まえた学力向上プランの策定
- ◎ 小・中学校における「見通す・振り返る」活動を位置付けた授業の実施
- ◎ 分かりやすい授業の実現を目指したICT活用のための環境整備
- ◎ 学校で統一した学習規律・生活規律の徹底の継続
- ◎ 放課後学習等による個に応じた指導の充実
- ◎ 学生ボランティアを活用した子ども塾など学習活動サポート事業の実施
- ◎ 地域が学校運営に参画する持続可能な仕組みと地域コミュニティづくりの構築
- ◎ 子どもの読書意欲の向上に資する学校移動図書館及び読書週間事業による朗読会の実施

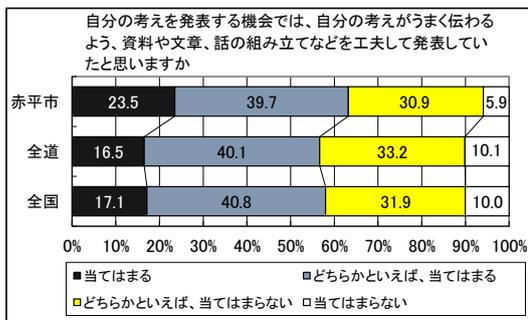
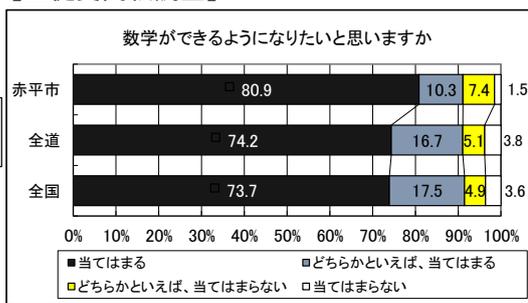
# ■ 赤平市内中学校の状況及び学力向上策(学校数:2校、生徒数:68人)

## 【教科全体の状況】

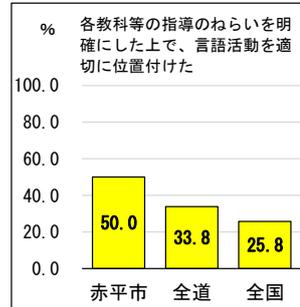
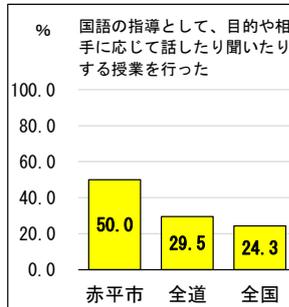
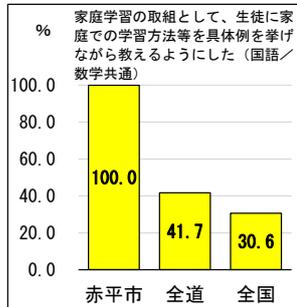
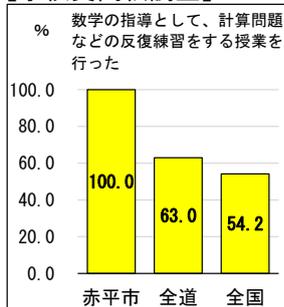
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを  
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



## 【生徒質問紙調査】



## 【学校質問紙調査】



## 【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国語Aでは、「話すこと・聞くこと」で全国に最も近くなっている。</li> <li>○ 数学Bでは、「数と式」で全国に最も近くなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 数学の指導として、計算問題などの反復練習をする授業や、家庭学習の取組として生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教える取組をよく行った結果、数学ができるようになりたいと回答した生徒の割合が増え、数学Bの「数と式」で全国に最も近くなったと考えられる。</li> </ul>
生徒質問紙	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「数学ができるようになりたい」と回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回っている。</li> <li>○ 「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた」と回答した生徒の割合が、全国を上回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各教科等の指導のねらいを明確にした適切な言語活動を位置付けた授業や、目的や相手に応じて話したり聞いたりする国語の授業をよく行った結果、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表する生徒が増え、国語Aの「話すこと・聞くこと」で全国に最も近くなったと考えられる。</li> </ul>
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ すべての学校が、「数学の指導として、計算問題などの反復練習をする授業をよく行った」と回答している。</li> <li>○ すべての学校が、「家庭学習の取組として、生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにした」と回答している。</li> </ul>	

## 【赤平市の学力向上策】

- ◎ 全国学力・学習状況調査結果等を踏まえた学力向上プランの策定
- ◎ 小・中学校における「見通す・振り返る」活動を位置付けた授業の実施
- ◎ 分かりやすい授業の実現を目指したICT活用のための環境整備
- ◎ 学校で統一した学習規律・生活規律の徹底の継続
- ◎ 放課後学習等による個に応じた指導の充実
- ◎ 学生ボランティアを活用した子ども塾など学習活動サポート事業の実施
- ◎ 地域が学校運営に参画する持続可能な仕組みと地域コミュニティづくりの構築
- ◎ 子どもの読書意欲の向上に資する学校移動図書館及び読書週間事業による朗読会の実施